

課題研究Ⅱ 2022年6月26日(日) 15:10-17:25

高等教育における「リバーズ・ジェンダー・ギャップ」

—東南アジアの国際比較—

司会 福留 東土 (東京大学)

パネリスト

鴨川 明子 (山梨大学) 趣旨説明及びマレーシア

久志本裕子 (上智大学) マレーシア

服部 美奈 (名古屋大学) インドネシア

市川 誠 (立教大学) フィリピン

羽谷 沙織 (立命館大学) カンボジア

ディスカッサント

黒田 一雄 (早稲田大学)

教育ジェンダー格差に関する世界的な動向の視点から

趣旨説明

本研究は、高等教育段階において男性よりも女性の数が上回る「リバーズ・ジェンダー・ギャップ (RGG)」現象に着目し、その現象が見られる東南アジアの国々を主たる対象とする国際比較研究である。研究では、東南アジアにおけるリバーズ・ジェンダー・ギャップ現象の現状及びその現象を生じさせる背景や要因の解明を試みる。さらに、女性の高学歴化とワークライフキャリアが多様に結びつく東南アジアの事例を提示することにより、比較教育学における「ジェンダーと教育」研究に対する新たな視座の提供を目指したい。

当日は、東南アジアのフィールドで20年以上調査研究してきたパネリストに、各国の事例を紹介していただく。まず、マレーシアとインドネシアの事例から、特に高等教育段階で顕著に見られるリバーズ・ジェンダー・ギャップという現象について、女性の高学歴化に焦点を当てながら背景や要因を考察する。さらに、世界経済フォーラムが発表する GGI (Gender Gap Index) で常にアジアトップを走るフィリピン、政府が教育のジェンダー平等を目標に掲げ、大規模な女子向け奨学金政策を実施するカンボジアを含めて事例を紹介する。そして最後に、教育ジェンダー格差に関する世界的な動向の視点から、コメントをいただく。

なお、本研究は、科学研究費基盤研究 B「高等教育における「リバーズ・ジェンダー・ギャップ」現象—東南アジアの国際比較」及び同基盤研究 C「東南アジア島嶼部における男子・男性のワークライフキャリア形成」(以上研究代表者：鴨川明子)の助成による研究成果の一部である。